

特集

病院管理からみた患者安全

繰り返される医療事故報道は医療への信頼を揺るがせており、病院管理者にとって患者安全の確保は最も差し迫った課題である。医療の質の向上と患者安全の確保は表裏の関係にあり、医療事故防止の体制を整備して病院組織における安全文化の確立を図ることは、医療の質保証の基本的な前提となっているといえる。本特集では、医療の質と医療事故をめぐる諸問題を米国を中心とした諸外国の動向も踏まえてとらえ直し、医療事故の原因分析と有効な防止策の方法などについて改めて検討しておきたい。

患者安全の確保については行政にとっても重要課題となっており、「医療安全支援センター」の設置など、最近の施策の概要と今後の方向について把握しておく必要がある。国民・患者側からの医療に関する相談の受け入れ、医療機関側からの情報提供も求められているが、その中で医療事故や医事紛争が主要な検討対象となっているからである。また、医療の現場の安全管理責任者であるリスクマネジャーは一定の定着をみているが、その業務内容と権限の範囲などは病院によって多様であるように見受けられる。患者安全の実をあげるうえで、リスクマネジャーのあり方を考えておきたい。

院内のインシデントレポートなどによる報告体制は多くの病院で行われているが、単独の病院での検討には限界があることから、複数の病院からの情報提供による分析が行われている。医療事故そのものの情報提供を受け、匿名性に十分に配慮したうえで経験を共有して有効な事故防止を図ろうとする事例があるので、これまでの成果の概要について報告したい。

患者安全の確保に向けた最大限の努力にもかかわらず引き起こされてしまった事故後の対応に多くの病院管理者は苦慮している。患者・家族への説明、行政や警察への報告・届出、メディアへの対応、そして紛争の処理など、問題の解決は容易ではない。そこで、病院の管理者4名による座談会を行い、医療事故とその再発防止をめぐる諸問題の現況と今後の対応のあり方について論議をしていただくこととした。患者安全の一助となることを期待する。

(大道 久)